

遺伝性のがんの患者と家族への看護

キーワード：遺伝性腫瘍、HBOC、遺伝がん看護

領域・氏名

看護（成人看護学） 准教授／ 矢野朋実

概要

遺伝性のがん、特に遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）の方とその家族の遺伝情報に関するコミュニケーションを促進する看護援助モデルを構築しようとする研究に取り組んでいます。

具体的な内容

第3期がん対策推進基本計画によりわが国のがんゲノム医療は急速に実装化され、第4期ではがんゲノム医療の提供体制がさらに整備されて個別化医療が進展していきます。この中で、遺伝性のがんも注目されています。遺伝性のがんと診断された者の家系では、予防や早期発見の観点から、血縁者に病気について理解を促し、疾患に対して備えていくことが望まれます。そのために血縁間での情報共有は欠かせません。しかし、遺伝情報という特性故、難しいのが実情です。

がんの遺伝情報に関する家族間コミュニケーションの様相、医療提供者が捉えている課題を明らかにし、欧米で先行している支援方法を参考にしながら国内で活用できる支援モデルを見出していきたいと考えています。

Information（情報）

遺伝性のがんと共に生きる方への看護、子どもをもつがんと共に生きる方への看護、手術療法を受ける患者様・ご家族への看護、救急医療における看護に関するテーマの共同研究を希望します。

小学生や一般市民を対象にした救急蘇生法の講習も実施しています。